

---

# ある日のこと……

沖田 光海

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日のこと……

### 【Nコード】

N5483S

### 【作者名】

沖田 光海

### 【あらすじ】

僕の実体験です。

スクールバスに乗っていたときの出来事で、僕の心に残った出来事です。

とりあえず、人物の名前とか、口調以外はほぼ実話です。

これはある日の出来事です。

僕、沖田光海は毎日一時間近くバスに揺られ、学校へ通っています。

そのバスの中での出来事です。

その日僕はものすごく苛々イライラしていました。

もの凄く個人的な問題ですが……

その日の前日、僕は物凄く敵視している人と会いました。

彼と会うだけというなら、そこまで苛々しないのですが、口をきいてしまったんですよね……（あそこが行きつけの本屋でなかったら、胸ぐらつかんで罵声を罵声で返すようなことをしていたかもしれません）

本当に今考えるだけで自分はちっぽけな人間だと思えますよ。

ですが、人間誰しも苦手な人とか嫌いな人とかいますよね。

それを表に出すか出さないかの違いで（言われずもがな、僕は大体敵意は表に出す方です）。

そんなことに続いて、部活でも上手くいかないことがあったり、クラス替えの環境変化でストレスもたまって、苛々はピーク近くになっていました。

その上、帰りのバスに乗っている途中、窓を見たら大雨！

バスから降りたら自転車で家へ帰る僕からしたら憂鬱の種でしかありません。

その日の朝、母に言われてレインコート持ってきたから濡れることはありませんが、道が薄暗い上に雨で視界が悪くなっている道を帰るのはなかなかコワイものです。

ああイヤだなあ〜と思っていたとき、バスの運転手さんが言いま

した。

「大雨になったけど、皆、傘持っているかね？」  
と。

運転手さんは近くのコンビニにバスを止めました。

「傘忘れた人いるかね？」

その言葉に、僕の近くに座っていた女子生徒がおずおずと手を上げました。

運転手さんはコンビニに入ると3本のビニール傘を買ってきました。

一本を彼女に渡すと、他に傘を忘れた人がいないか聞いていました。

他に傘を忘れた人はいないようでした。

傘を忘れていた彼女は、バスを降りるとき丁寧に運転手さんにお礼を言っていました。

自分のことで手一杯な世の中で、いい人がいるんだなと僕は思いました。

いつの間にか苛々は収まっていました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5483s/>

---

ある日のこと.....

2011年10月8日15時28分発行